

ウイルス感染価の減少値

- 4桁以上
 - 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム、アルキルグリコシド、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、アルキルアミノオキシド
 - 次亜塩素酸水（電気分解法で生成したもの）
- 3桁以上
 - 脂肪酸カリウム
- 2桁以上
 - 脂肪酸アルカノールアミド、塩化ベンザルコニウム
- 効果なし
 - アルキルベタイン

どの程度の感染価の低下をもって
抗ウイルス効果があるとの判断とすべきか

【参考】 ウイルス不活化効果や抗ウイルス効果の判定基準の例

- EN 14476:2013+A1 2015（消毒薬等の欧州標準試験規格）
 - 4log₁₀以上減少： ウイルス不活化効果あり
- JIS L 1922、ISO 18184:2014（繊維製品の抗ウイルス性試験方法）
 - 3log₁₀以上の減少： 十分な効果あり
 - 2log₁₀以上 3log₁₀未満の減少： 効果あり